

5/31 – Lecture 3.

「バラのゲノム研究と今後の展開」

講師：モハメド・ベンダマーネ氏

ENS（高等師範）リヨン校 植物繁殖生長部門

15 parvis René Descartes, 69342 Lyon Cedex 07, France

バラは世界のさまざまな社会で高い象徴的な価値と、文化的に大きな重要性を持つ。広く観賞植物として用いられ、また切り花や、香料・化粧品のための精油生産にも用いられる。バラの育種は、ヨーロッパ、アジア、中東のさまざまな野生種の交配を伴っている。バラの花の質、構造や耐病性等のいくつかの経済的価値の高い特性は栽培過程でのバラの環境への適応やその後の発展にともなって選別されてきた。

ここ 10 年の研究で、多くの植物種のゲノム解読がすすみ、いかに植物が生長し、環境の影響を受けるかを理解するための背景が科学者のために提供された。国際的な科学協会に於いて、私たちがバラのゲノム配列の解明に着手した。このような情報はバラ属の重要な特性（花、植物の構造、耐病性など）を決定する遺伝的メカニズムや分子的メカニズムを理解するための科学的な研究を促進し、スピードアップさせるために、期待されている。バラの育種、特に複雑な特性の育種は時間がかかるものであり、普通その結果を予測することはできない。得られた知識はまた、植物の特性をDNAの分析で予見すること（DNAマーカー選抜育種）を可能にし、それによって育種を改良している。ここで得られた知識は経済的に重要なだけでなく、科学的な関心も集めている。バラは樹木の観賞植物のモデルとして適している。バラのゲノム配列の重要性と、それが、バラのみならず、その他の関係する種への利用の可能性が検討されることになる。